

平成 19 年 10 月 19 日

文化庁

重要文化財（建造物）の新指定について

文化審議会（会長 石澤 良昭）は、平成 19 年 10 月 19 日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに 10 件の建造物を重要文化財に指定することを文部科学大臣に答申しました。この結果、近日中に行われる官報告示を経て、重要文化財（建造物）は、2,327 件、4,209 棟（うち国宝 213 件、257 棟を含む。）となる予定です。

◎今回の答申における特筆すべきもの

千葉家住宅主屋ほか

岩手県遠野市

遠野市郊外の山麓に小城こじょうのような屋敷を構える曲り屋まがりや民家で、江戸末期に建てられた主屋を囲むように、土蔵や稲荷社などの附属屋が建つ。主屋は大型で、座敷の意匠も洗練されており、江戸末期の南部曲り屋を代表する民家である。

早稲田大学大隈記念講堂

東京都新宿区

早稲田大学創立者である大隈重信に対する記念事業として計画され、昭和 2 年に竣工した講堂である。早稲田のシンボリック的存在であり、ロマネスク様式にゴシック様式を加味した我が国近代の折衷主義建築の優品として価値が高い。

〈個別解説凡例〉

番号 特 徴 (年代区分／種類別)

名 称 員 数

複数棟指定の場合の建造物の名称、土地* 等

(*建造物と一体をなして価値を形成している土地をあわせて指定するもの。)

所 在 地

所 有 者

① わが国における鉄筋コンクリート造寺院建築の嚆矢（近代／宗教建築）

大谷派本願寺函館別院 3棟

本堂，鐘楼，正門

北海道函館市

真宗大谷派函館別院

大谷派本願寺函館別院は、明治40年の函館大火で堂宇を焼失した後に、当時帝室技芸員であった伊藤平左衛門9世の設計により鉄筋コンクリート造で再建された寺院建築である。本堂は大正4年11

月に竣工し、正面が33mと大規模で、平面は典型的な真宗本堂形式としている。

大谷派本願寺函館別院は、鉄筋コンクリート造建築の初期の遺構であり、鉄筋コンクリート造で伝統様式を再現した我が国で最初の寺院建築として高い歴史的価値がある。また、耐火建築として、その後の函館市街地への不燃建築普及の契機となったもので、深い意義が認められる。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの



② 小城のような屋敷を構える大型曲り屋（近世以前／民家）

千葉家住宅 5棟

主屋，土蔵，石蔵，稲荷社，

大工小屋，土地

岩手県遠野市

千葉 弘子

千葉家は、遠野市西寄りの山麓に小城のような屋敷を構えている。

天保年間に主屋が建設され、大正末期頃までに現在のような屋敷構えが整った。

主屋は、馬屋を前面に張り出してL形平面とする、いわゆる南部の曲り屋形式の民家で、主屋の座敷では面皮材めんかわの棹縁を使用するなど、瀟洒な意匠を見せる。

千葉家住宅は、南部曲り屋の分布域南縁に位置するとともに、遠野地方に典型的な平面をもち、洗練された座敷意匠を採用するなど、江戸末期の大型曲り屋民家として高い価値がある。また主屋の周囲には、江戸末期から大正期にかけて建設された附属建物が残り、その特異な敷地構成とともに豪農の屋敷構えをよく保っている。

○指定基準＝流派的又は地方的特色において顕著なもの



③ 早稲田大学を象徴する講堂（近代／学校建築）

早稲田大学大隈記念講堂 1 棟

東京都新宿区

学校法人早稲田大学

早稲田大学大隈記念講堂は、創立者である大隈重信に対する記念事業として計画され、同大建築学科の佐藤功一教授と佐藤武夫助教授が設計し、同教授の内藤多仲たちゅうが構造を担当し、昭和2年10月15日に竣工した。



早稲田大学大隈記念講堂は、早稲田のシンボリック的存在であり、ロマネスク様式を基調としてゴシック様式を加味した我が国近代の折衷主義建築の優品として、高い価値がある。また早稲田大学建築学科で永く教鞭をとり、多くの建築家を育てた佐藤功一の代表作としても重要である。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの

④ わが国最初の近代下水処理場施設（近代／産業・交通・土木）

旧三河島污水処分場唧筒場施設 5 所, 2 棟

阻水扉室 (2 所), 沈砂池及び濾格室 (2 所),

濾格室上屋, 量水器室及び唧筒室暗渠 (1 所),

唧筒室, 土地

東京都荒川区

東京都

旧三河島污水処分場唧筒場施設は、隅田川中流に位置する旧下水処理場施設で、東京市区改正事業の一環として、東京市技師米元晋一よねもと しんいちを中心として建設が進められ、大正11年3月に運用を開始した。



提供：東京都下水道局

旧三河島污水処分場唧筒場施設は、わが国最初の近代下水処理場である旧三河島污水処分場の代表的遺構として、高い歴史的価値が認められる。

また、阻水扉室、沈砂池などの一連の構造物が、旧態を保持しつつまとめて残る点も、近代下水処理場唧筒場施設の構成を知る上で重要である。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの

⑤ 上質な接客空間を持つ問屋の建築（近世以前／民家）

手塚家住宅 3棟

主屋，別棟座敷，土蔵

長野県塩尻市

手塚 信司

手塚家は中山道の旧奈良井宿において、江戸時代を通じて問屋を主とする宿場内の要職を代々務めた。中山道に面して建つ主屋と、後方に接続する別棟座敷が天保11年(1840)に建てられた。



主屋は、一階に問屋業のための会所を設け、これとは別に、上客のための玄関と、洗練された意匠をもつ座敷を備えている。

手塚家住宅は、建築年代が明らかで、江戸時代末期の木曾地方における問屋建築の姿を留めるものとして高い価値があり、また重要伝統的建造物群保存地区に選定されている塩尻市奈良井の宿場町を代表する町家建築である。

○指定基準＝流派的又は地方的特色において顕著なもの

⑥ 中世時宗寺院の伽藍を伝える希少な遺構（近世以前／寺院建築）

常称寺 4棟

本堂，観音堂，鐘撞堂，大門

広島県尾道市

常称寺

常称寺は、時宗二代真教によって、鎌倉時代後期に創建された寺院で、本堂は室町中期、観音堂は室町後期、鐘撞堂は江戸前期、大門が室町前期の建築とみられる。



常称寺の諸堂は、室町期の時宗寺院伽藍を伝える数少ない遺構であり、特に本堂は、和様の外観と禅宗様の内部構成を兼備し、内外陣と脇陣を一体的空間とするなど、盛期の時宗本堂の特徴を有している。

また、境内に残る観音堂や鐘撞堂も、各時代における当地方の意匠的特徴を備えており、時宗寺院伽藍の構成を理解するうえで、価値が高い。

○指定基準＝学術的価値の高いもの

⑦ 県下最初期の鉄筋コンクリート造にして独創的意匠の住宅（近代／住居建築）

みかわ
三河家住宅 1棟，土地

徳島県徳島市

三河 春樹，三河 牧子

三河家住宅は、産婦人科病院を開院していた医学博士三河義行が、昭和3年頃に建てた自邸で、徳島県立工業学校建築科出身の木内豊次郎が設計した。

主屋は鉄筋コンクリート造3階建てで、展望台としての塔屋を高く立ちあげ、2階には波形平面のテラスを設けるなど、曲面を多用した複雑で変化に富んだ輪郭を形造っている。また内部は、玄関風除室の黒白タイルの市松敷きや、曲面建具やステンドグラスなど、要所に見所をつくる。

三河家住宅は、鉄筋コンクリート構造を用い、独特の造形意匠でまとめあげた住宅建築である。地方における近代建築の展開を物語る指標的作品のひとつとして歴史的価値が高い。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの



⑧ 洗練された意匠の座敷を備える、商家の住宅（近世以前／民家）

竹村家住宅 3棟

主屋，土蔵，表門，土地

高知県高岡郡佐川町^{さかわ}

竹村 千恵子

竹村家は、佐川屈指の商家で、江戸後期に苗字帯刀と酒造を許されて酒造業を手がけるとともに、幕府からの巡見使には宿所を提供していた。

主屋は、東側の店舗部と西側の座敷部からなり、店舗部は安永9年(1780)頃、座敷部は天保9年(1838)の建築とみられる。

店舗部は、広い吹き抜けの土間と、オモテ、チョウバなどの部屋をもつ町家形式で、座敷部は、座敷のほか茶室なども備えた接客空間をもち、当地に特徴的な意匠の座敷飾りや貼付壁^{はりつけかべ}を採用している。

竹村家住宅は、幕府巡見使の宿所とされ、武家住宅に準ずる上質な座敷を備えるなど、土佐地方における有力商家の住宅として重要である。

○指定基準＝流派的又は地方的特色において顕著なもの



⑨ 交通と海防の拠点として築かれた港湾施設（近代／産業・交通・土木）

鹿児島旧港施設 3所

新波止、一丁台場、遮断防波堤

鹿児島県鹿児島市

鹿児島県

鹿児島旧港施設は、鹿児島市中心地の鹿児島港本港区に位置する港湾施設である。新波止と一丁台場は海岸埋立地の波除けとして、それぞれ弘化年間頃及び明治5年頃に築かれ、遮断防波堤は、鹿児島県による修築事業によって、明治37年に竣工した。



鹿児島旧港施設は、南九州における交通と海防の拠点として、近世から近代にかけて整えられた、鹿児島港の代表的遺構であり、また、築造が江戸末期に遡り、沖防波堤である新波止、技術の時代的特色をよく示す一丁台場及び遮断防波堤が、旧態を保持しながらまとめて残っており、港湾技術史上、高い価値がある。

○指定基準＝歴史的価値の高いもの

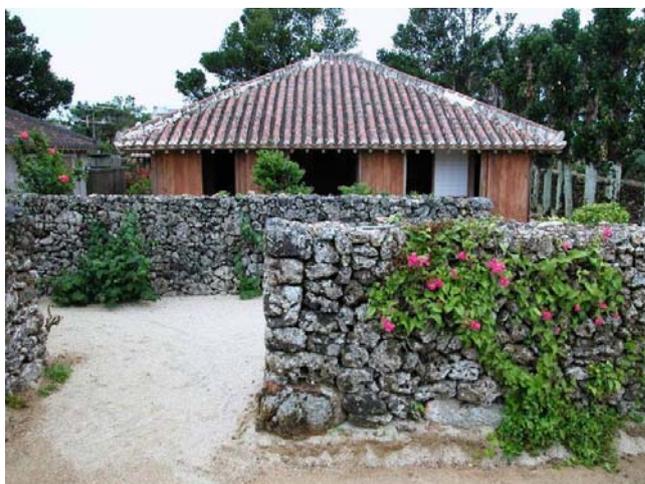
⑩ 竹富島の伝統的集落を代表する住宅（近代／住居建築）

旧与那国家住宅 1棟、土地

沖縄県八重山郡竹富町

竹富町、与那国 遅

旧与那国家住宅は、竹富島の東屋敷集落に所在し、主屋である「ふーや」と、台所棟である「とーら」を並べた、分棟型の住宅である。「ふーや」は沖縄地方の伝統的な間取りをもち、大正2年に建てられた。また、「ふーや」の正面には、石積の「まいやし」が建ち、宅地周囲に「ぐっく」と呼ぶ石垣を巡らせる。



旧与那国家住宅は、分棟型の「ふーや」と「とーら」を中心とする住宅の構えを良好にとどめている。また、竹富町竹富島伝統的建造物群保存地区の核となる住宅であるとともに、竹富島における近代の住居形態と生活様態を理解するうえで、高い価値がある。なお当住宅は、国内最西端の重要文化財建造物となる。

○指定基準＝流派的又は地方的特色において顕著なもの

(平成19年10月答申)

国 宝（ 建 造 物 ） 指 定 数

	種 類 別	現在指定数		新規指定		合 計	
		件数	棟数	件数	棟数	件数	棟数
近 世 以 前 の 分 類	神 社	36	58	—	—	36	58
	寺 院	154	160	—	—	154	160
	城 郭	8	16	—	—	8	16
	住 宅	12	20	—	—	12	20
	民 家	0	0	—	—	0	0
	そ の 他	3	3	—	—	3	3
	合 計		213	257	—	—	213

重 要 文 化 財（ 建 造 物 ） 指 定 数

	種 類 別	現在指定数		新規指定		追加	合 計	
		件数	棟数	件数	棟数	棟数	件数	棟数
近 世 以 前 の 分 類	神 社	562	1,153	—	—	—	562	1,153
	寺 院	842	1,099	1	4	—	843	1,103
	城 郭	52	234	—	—	—	52	234
	住 宅	94	150	—	—	—	94	150
	民 家	335	735	3	11	—	338	746
	そ の 他	192	262	—	—	—	192	262
	小 計		2,077	3,633	4	15	—	2,081
近 代 の 分 類	宗 教	19	19	1	3	—	20	22
	住 居	61	206	2	2	—	63	208
	学 校	37	64	1	1	—	38	65
	文 化 施 設	28	36	—	—	—	28	36
	官 公 庁 舎	20	25	—	—	—	20	25
	商 業 ・ 業 務	18	23	—	—	—	18	23
	産 業 ・ 交 通 ・ 土 木	53	162	2	10	—	55	172
	そ の 他	4	10	—	—	—	4	10
小 計		240	545	6	16	—	246	561
合 計		2,317	4,178	10	31	—	2,327	4,209